

北国脇往還を歩く

そこに見えるもの

- 第35期北近江文化学科

川並弘枝 木下二二男 澤邊雅子 福田英丸 三國喜代志

- 活動期間

平成25年11月26日～平成26年5月31日

- 発表者

木下二二男

活動をはじめるときにあたって

1. 進め方をどうするか(方針の決定)

- ①現場、現物、現状を、実際に この目で確かめよう。
- ②歩くことで 何かが見つかるかも。

2. 心がけたこと(取組み姿勢)

- ①あくまで主観を大切に。(ネットなどに頼らずに)
- ②あまり難しく考えない。(専門家ではない)
- ③健康を感じる旅にしよう。(年齢も加味してムリをせずに)
- ④できるだけ旧道を歩こう。(史実に忠実に)

全員でやってきたこと。

第1日目(11月13日)北国街道 栃の木峠～柳ヶ瀬宿 徒歩にて踏破。

第2日目(11月25日)雨天のため、ポイントを下見をする。

第3日目(12月15日)荒天のため、資料館めぐり。

第4日目(12月21日)荒天のため、米原校にて作戦会議。

第5日目(1月20日)脇往還を徒歩にて調査。(関ヶ原～春照)11.2km

第6日目(1月30日)脇往還を徒歩にて調査。(春照～野村) 8.7km

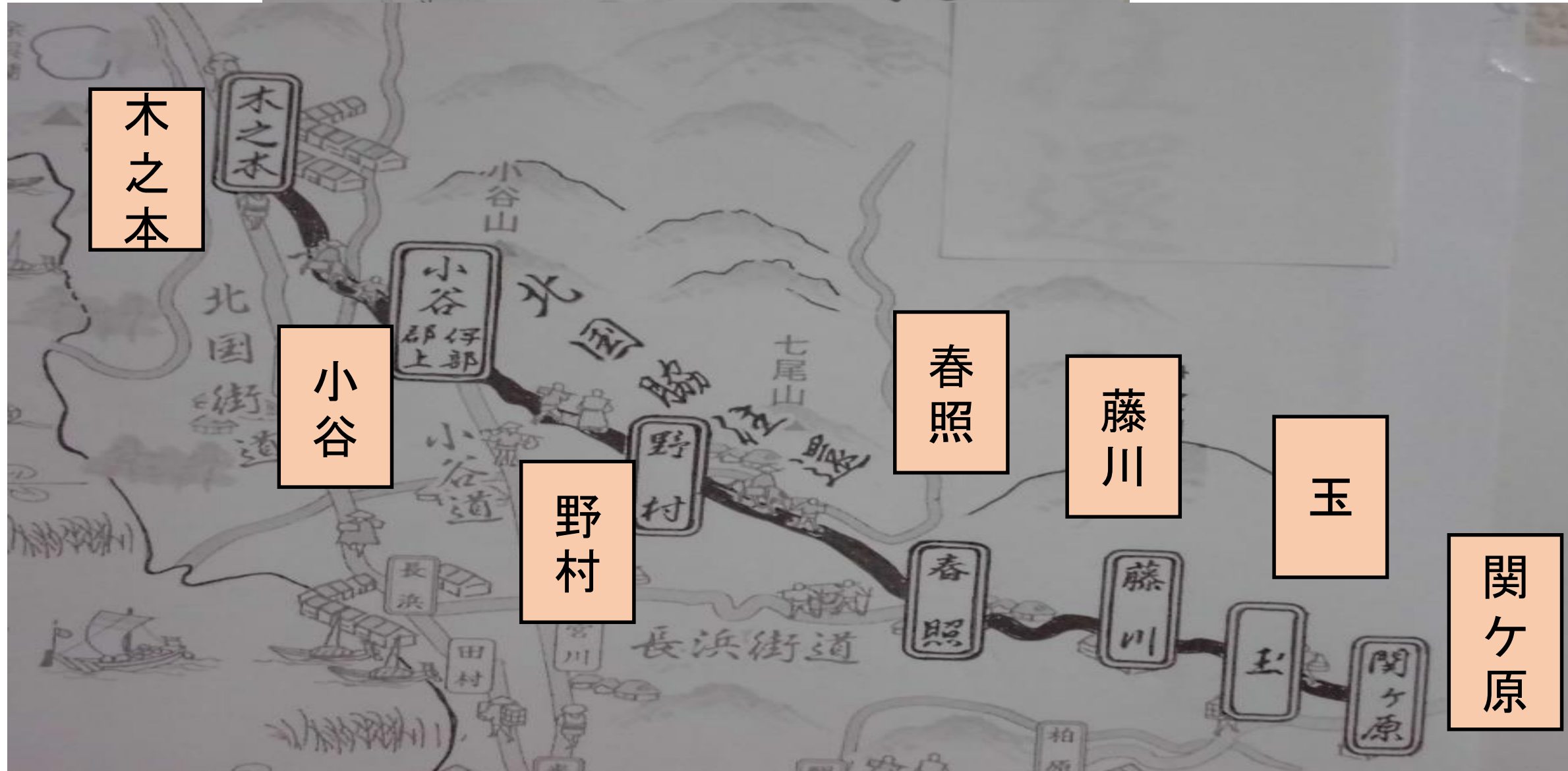
第7日目(2月19日)脇往還を徒歩にて調査。(野村～小谷) 7.0km

第8日目(2月26日)脇往還を徒歩にて調査。(小谷～木之本)8.7km

今回は第5日目～8日目を発表します

脇往還の宿

北



木之本

小谷

野村

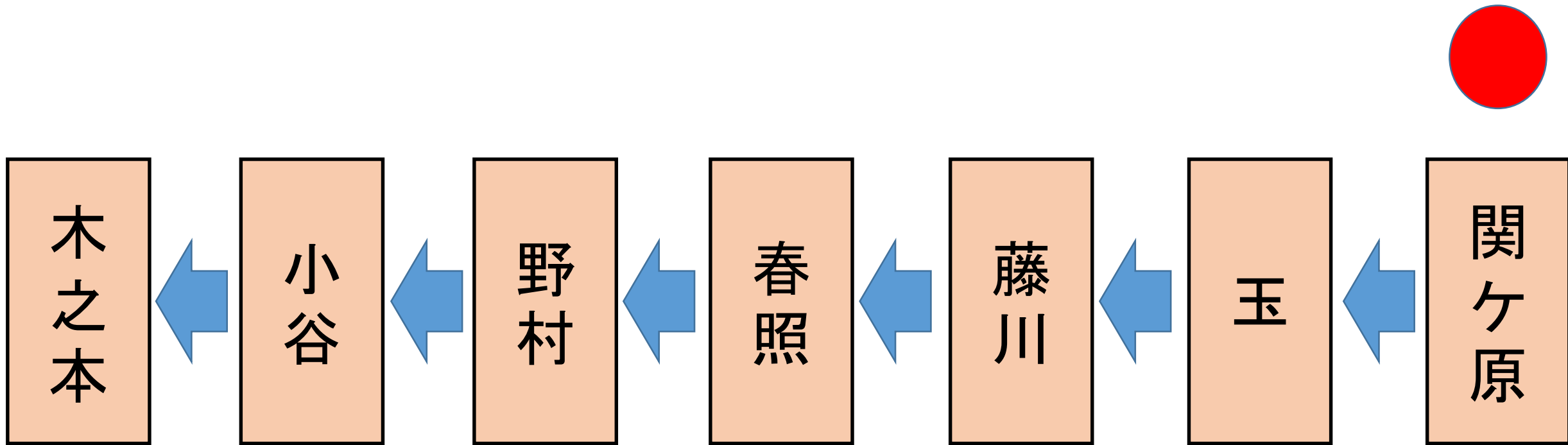
春照

藤川

玉

関ヶ原

これより、この図で位置を示してまいります



脇往還と中山道との分岐地点(今回の旅の始点)



関ヶ原町

木之本

小谷

野村

春照

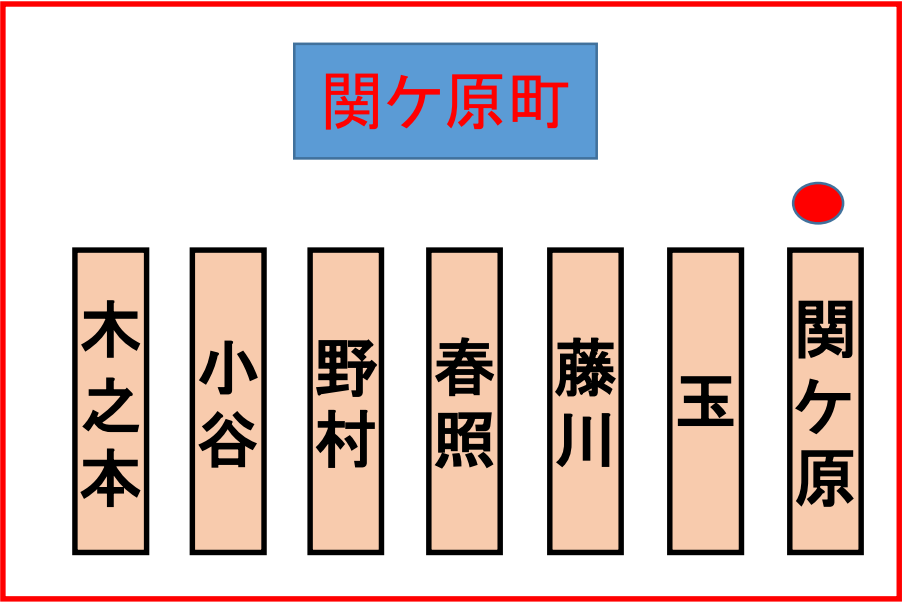
藤川

玉

関ヶ原

- 十六銀行関ヶ原支店前
- 「北国えちぜん道」

関ヶ原の戦い古戦場



• 手前の道路が脇往還

関ヶ原 小関の鉄道線路跡とされている道路



関ヶ原町

木之本

小谷

野村

春照

藤川

玉

関ヶ原

- 長い直線道が特徴

石田三成の本陣あとにて

関ヶ原町

木之本

小谷

野村

春照

藤川

玉

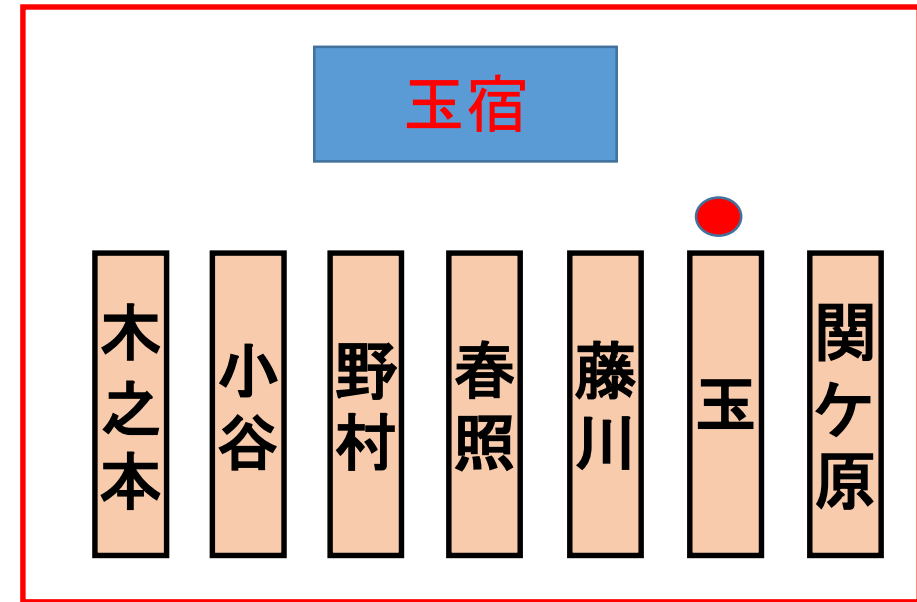
●
関ヶ原

- 活動メンバー
- 左から

木下、川並、澤邊、福田、三國



玉宿の町並み



- 道幅はきわめて狭い
- 正面に伊吹山を望む

道無き道 岐阜・滋賀県境を行く



県境

木之本

小谷

野村

春照

藤川

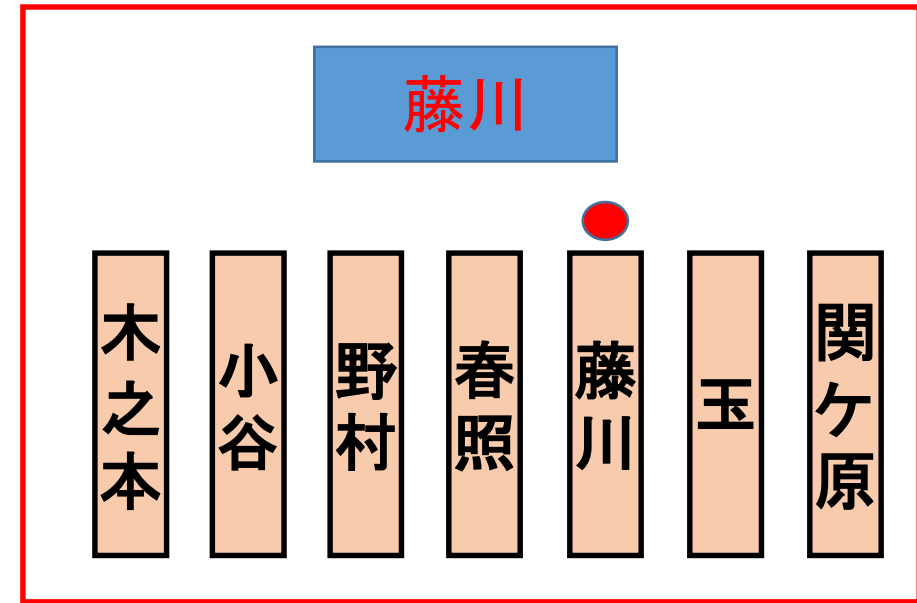
玉

関ヶ原

- ・画面左下は藤古川
- ・画面右上は国道365号線
- ・画面奥が滋賀県

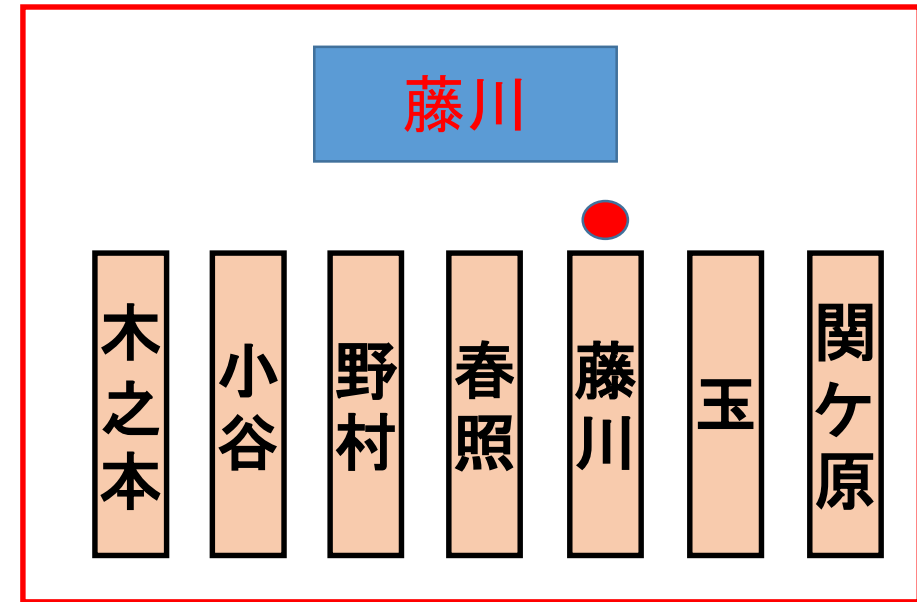
活動メンバー

藤川宿の本陣跡



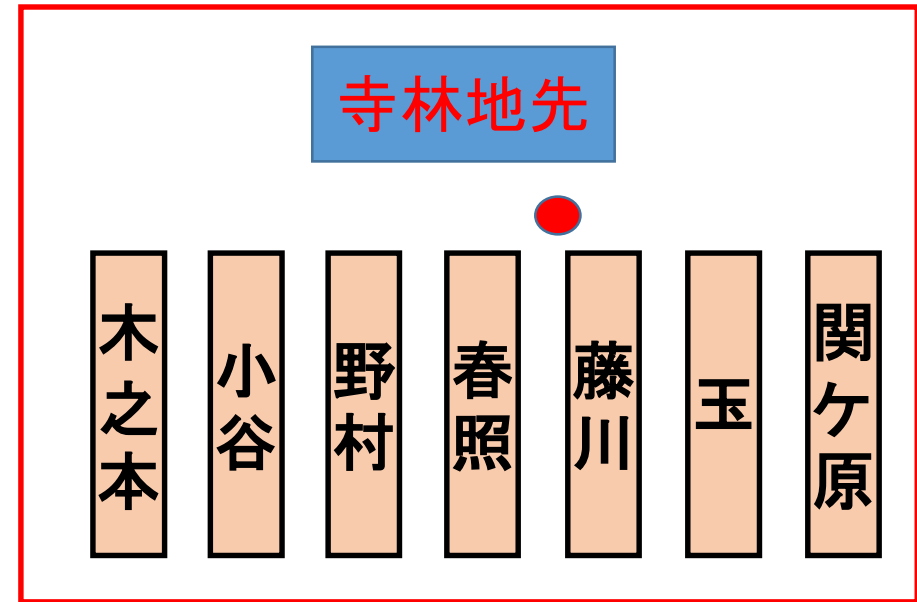
・現在も居住されている

藤原定家の寓居あと



- ・百人一首で有名な人
- ・一時期を藤川で過ごした

旧道に沿って、山岳地帯に行く



・イノシシの足跡もある

弥高いも園



弥高

木之本

小谷

野村

春照

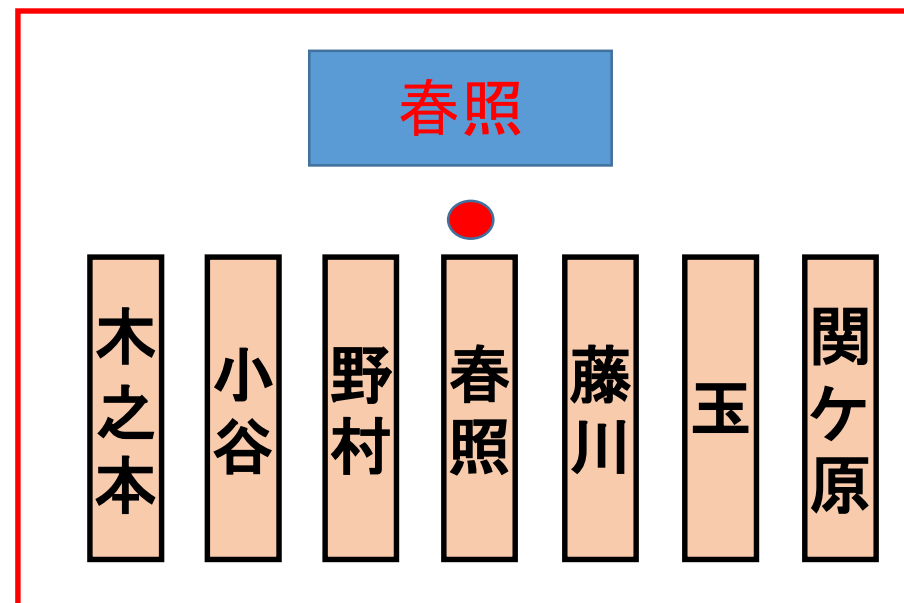
藤川

玉

関ヶ原

・明治の初め、地元の篤農家 松本五郎平の努力によって栽培が始まる

野頭にある芭蕉句碑



・『頭巾めせ 寒むや伊
吹の 山おろし』

常夜灯



春照

木之本

小谷

野村

春照

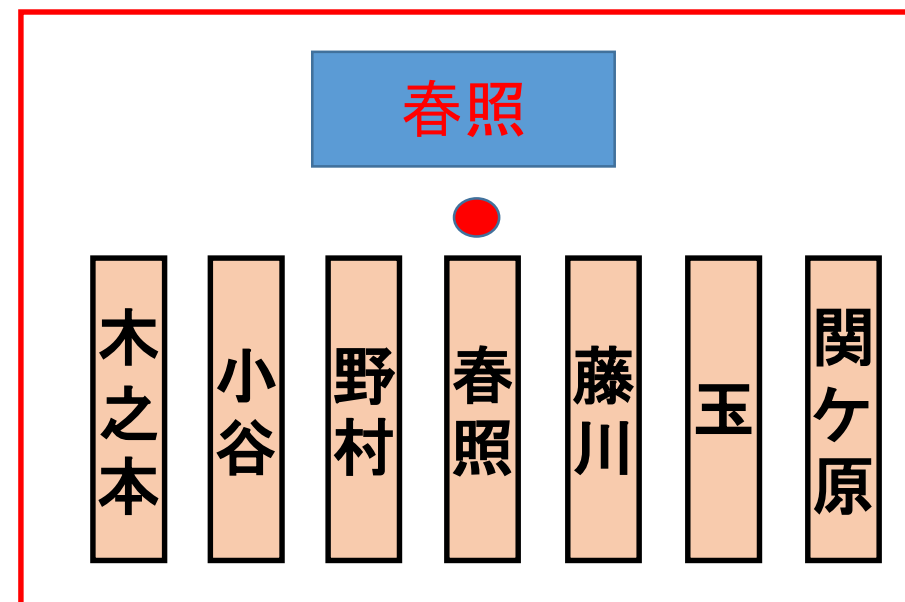
藤川

玉

関ヶ原

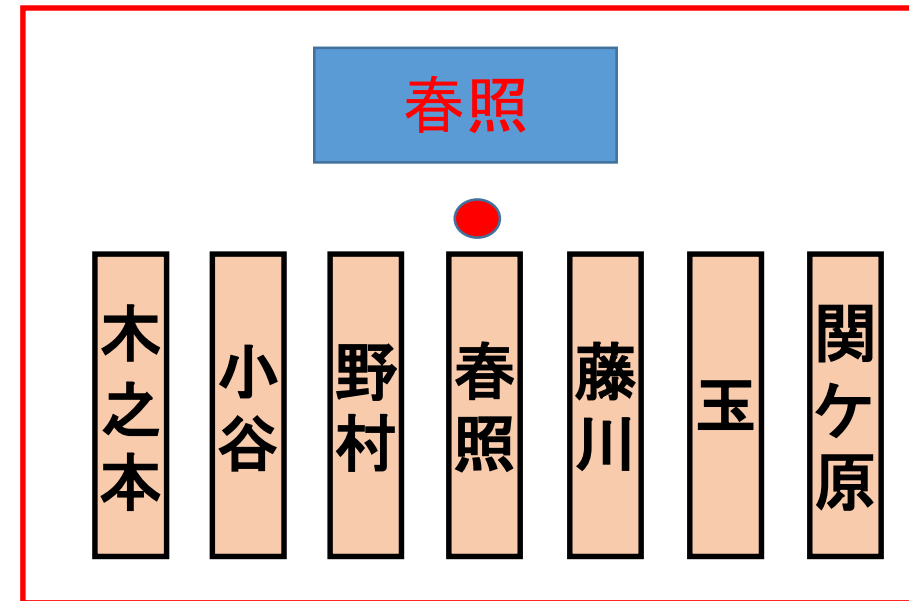
・宿場町のシンボル

ステーションみち（春照駅あと）



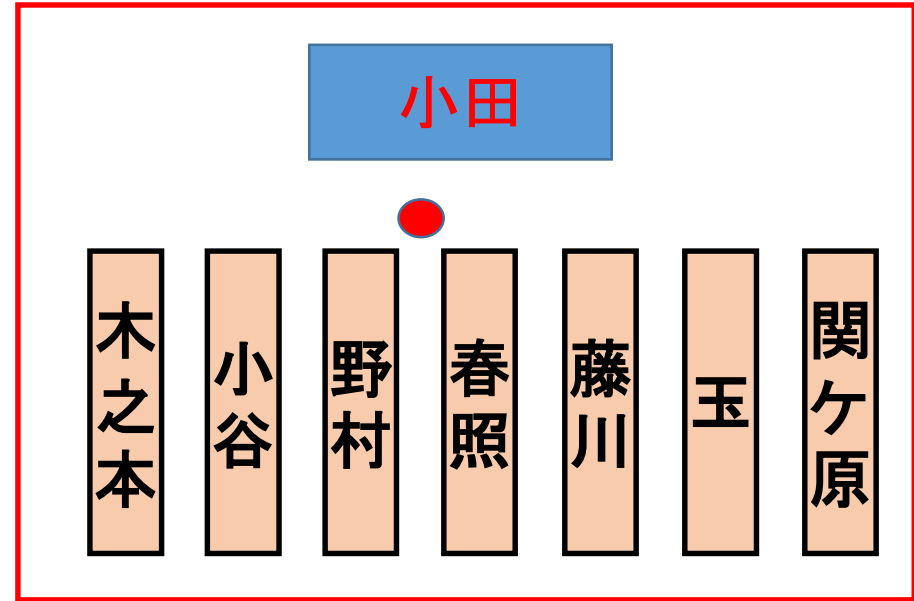
- 手前は国道365号線
- 後方は伊吹山

八幡神社(長浜道との分岐道標)



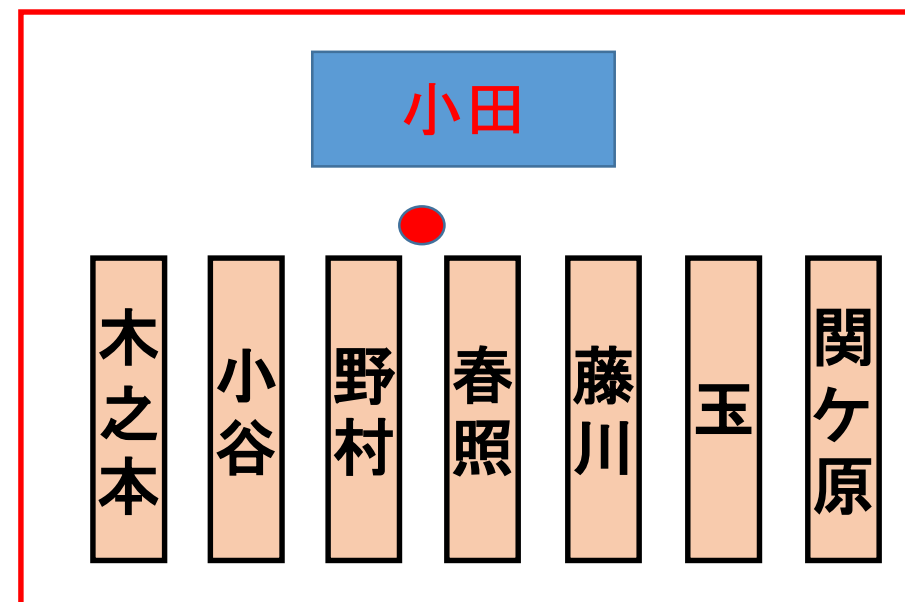
- ・右北国きのもとえちぜん道
- ・左ながはま道

小田(やないだ)の道標



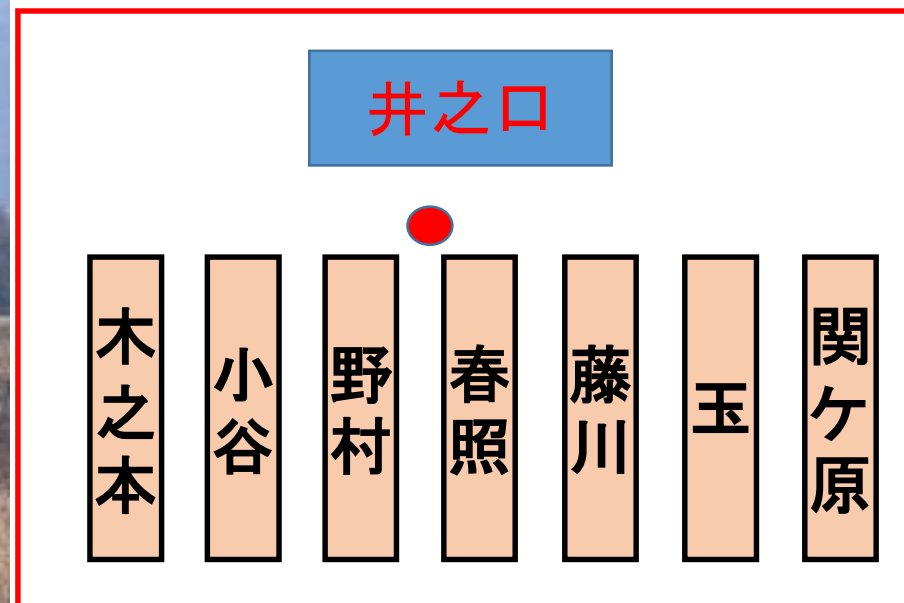
- ・右北國
- ・左谷汲道

道標に従い 七尾山山麓に向かう



・前方は姉川の堤

姉川に架かっていた越前橋の橋脚



・明治期の建設

子供を抱いた 珍しい地蔵様



井之口

木之本

小谷

野村

春照

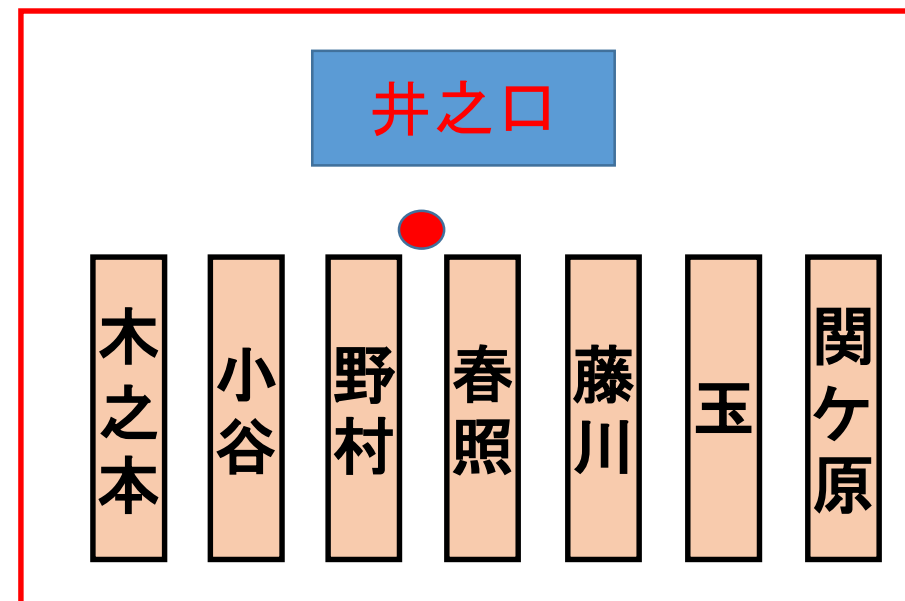
藤川

玉

関ヶ原

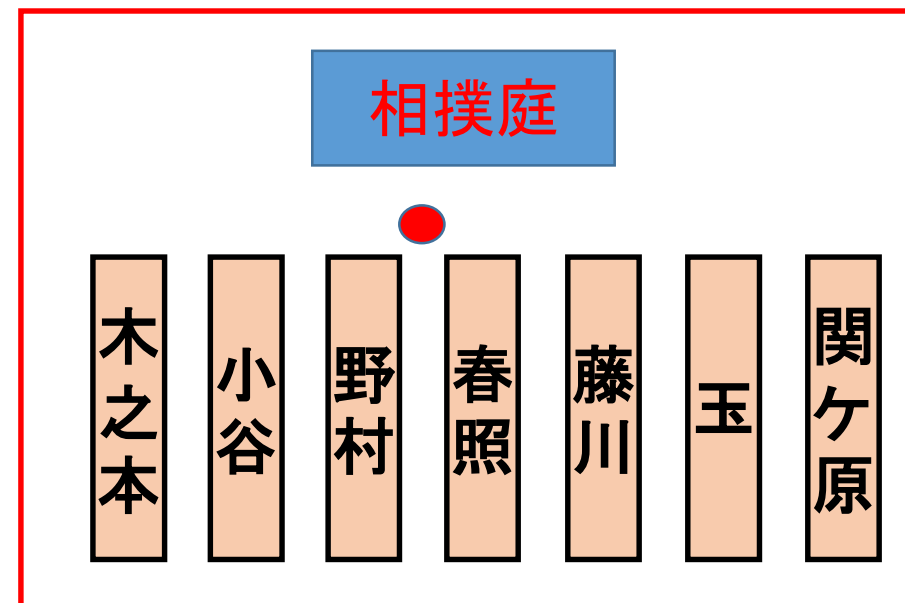
・一説に隠れキリシタンのマリア様ともいわれる

井之口の分水



・用水を公平に分配するための農業水利施設

梵字が彫られた石標



・弘法大師が水を掘り当てたと伝わる

観光ぶどう園



今庄

木之本

小谷

野村

春照

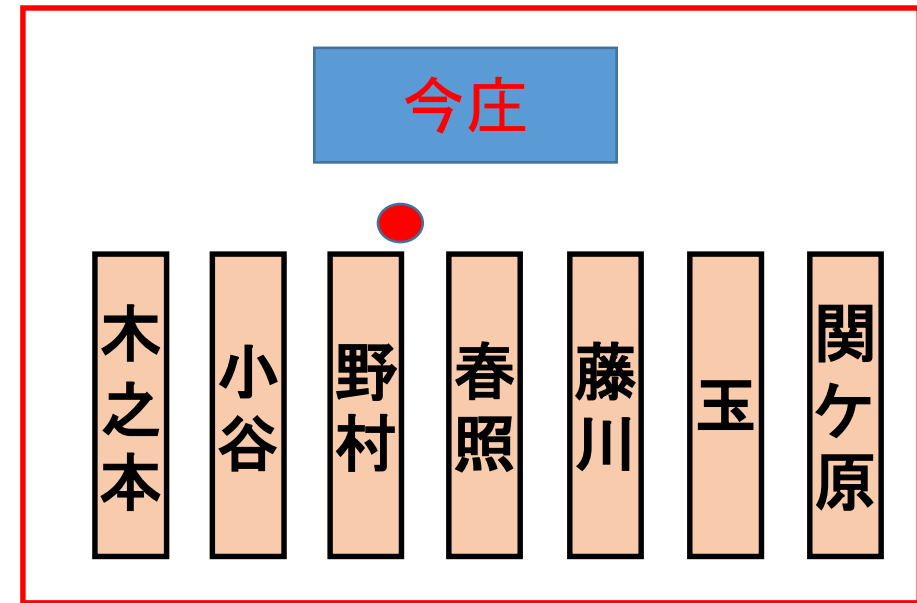
藤川

玉

関ヶ原

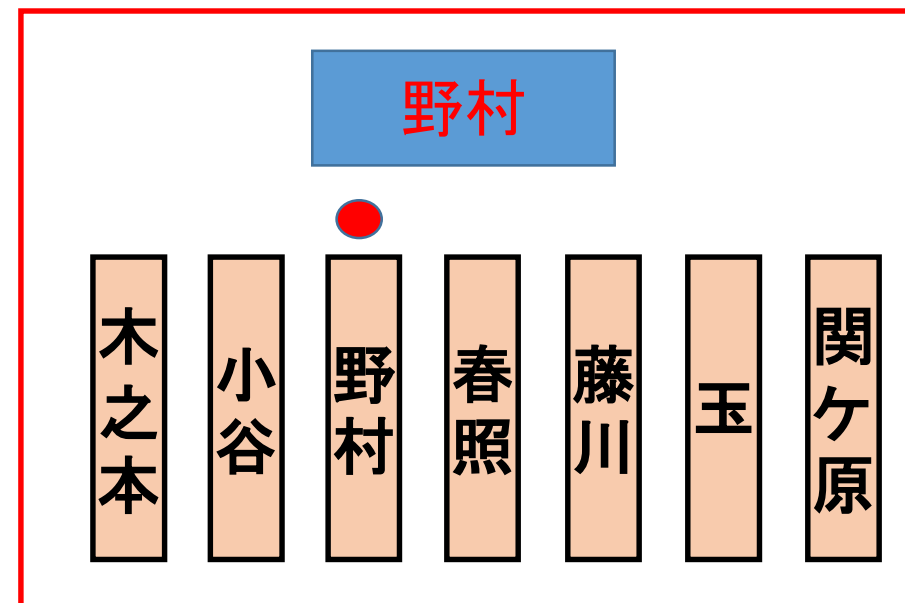
・水はけの良い土壌がぶどう栽培に適しているのか

桜で有名な天津神社



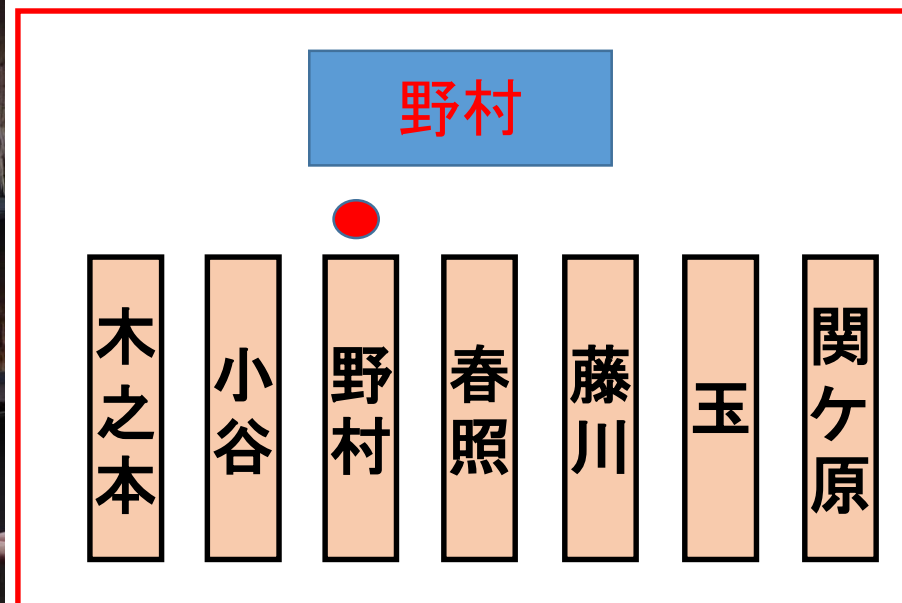
- ・後鳥羽上皇に仕えた豊菊姫の悲話も残る
- ・参道が道路で中断されている

消えてしまった道



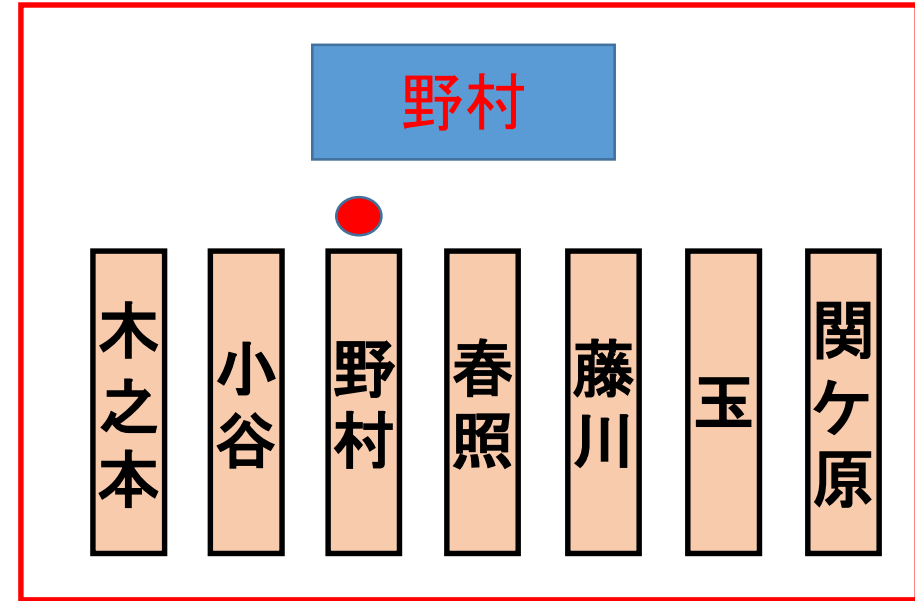
・昭和の後期、圃場整備
によって消えてしまった

天牌奉安地(天皇の神格化を図る)



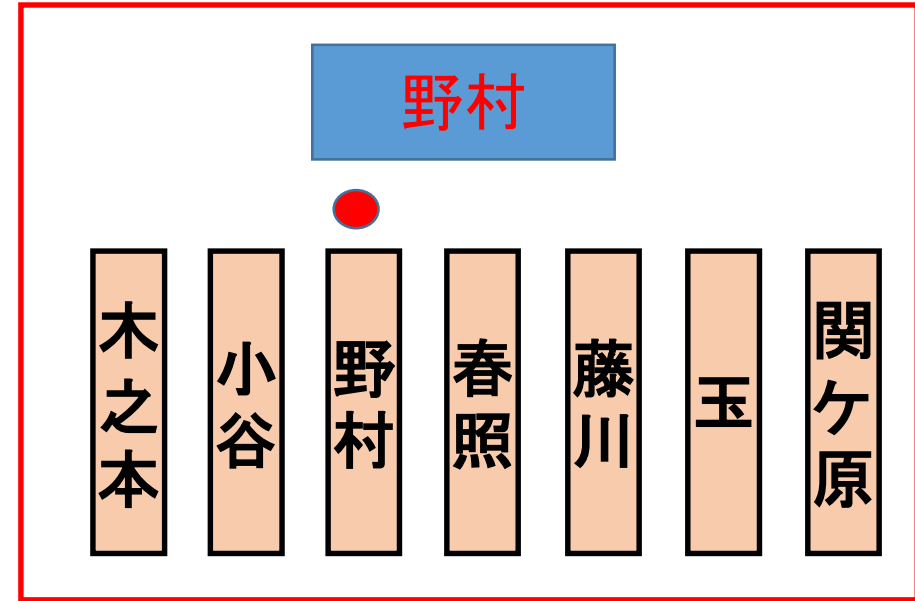
・寺の仏本尊前に天牌を安置して、天子を拝ませた

集落内を国道が通っていた



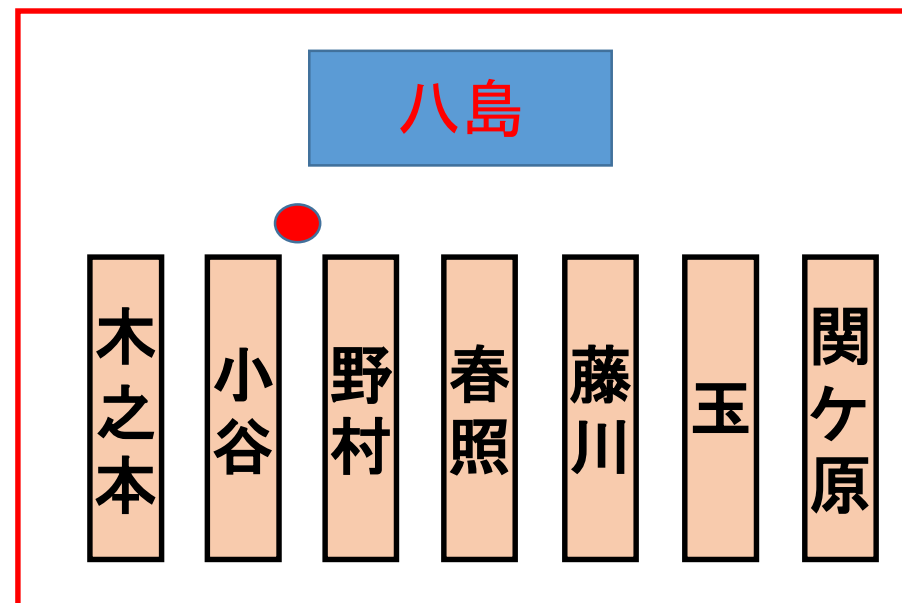
・橋の親柱に国道十二号線と刻まれている

大名のお休所 佐々木家と道標



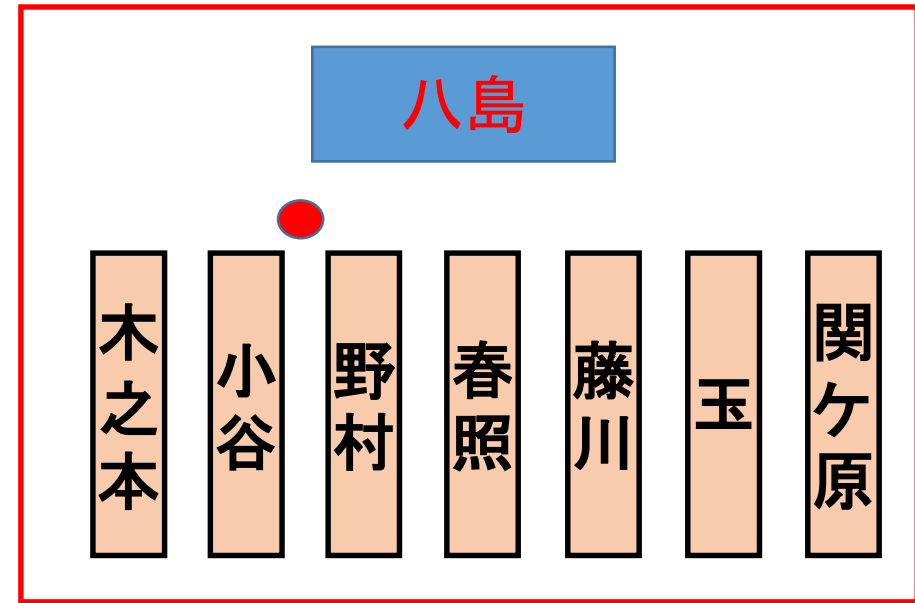
- ・間宿 野村に設置された
- ・『左江戸谷汲、』

八島への旧道(国道との分岐点)



・画面左側の狭い道路が旧道 その先が八島集落

亀塚古墳(6世紀ごろの古墳)



- ・埋葬者は中臣連金
- ・大伴皇子の側近であった

実宰院(浅井長政の姉が庵を再興した)



平塚

木之本

小谷

野村

春照

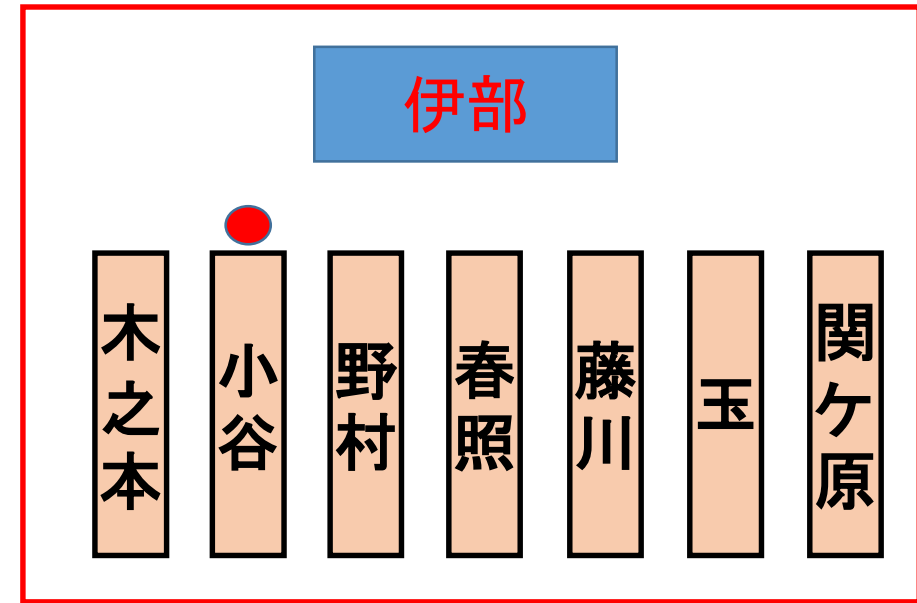
藤川

玉

関ヶ原

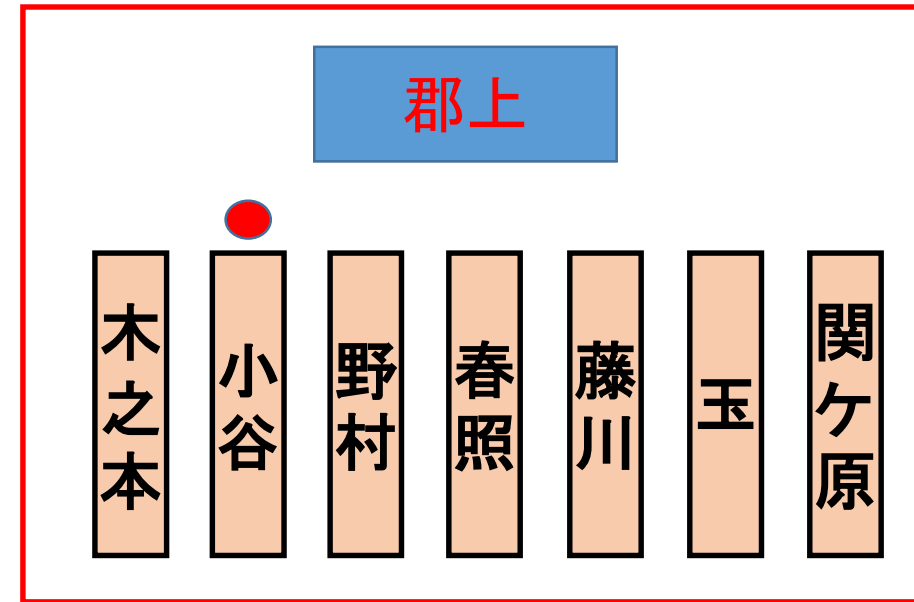
・浅井3姉妹を小谷落城の際、袈裟の中に入れて匿ったとされる

小谷城下 伊部の町並み



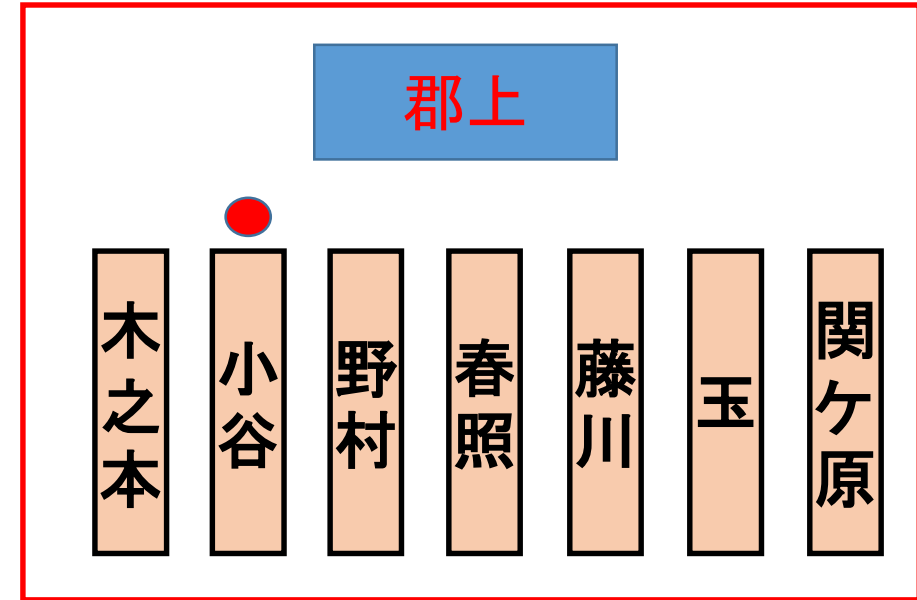
- ・広くて直線の道路
- ・その先はカギの辻になっている

大谷市場あと(小谷城下清水谷入口でひらかれた)



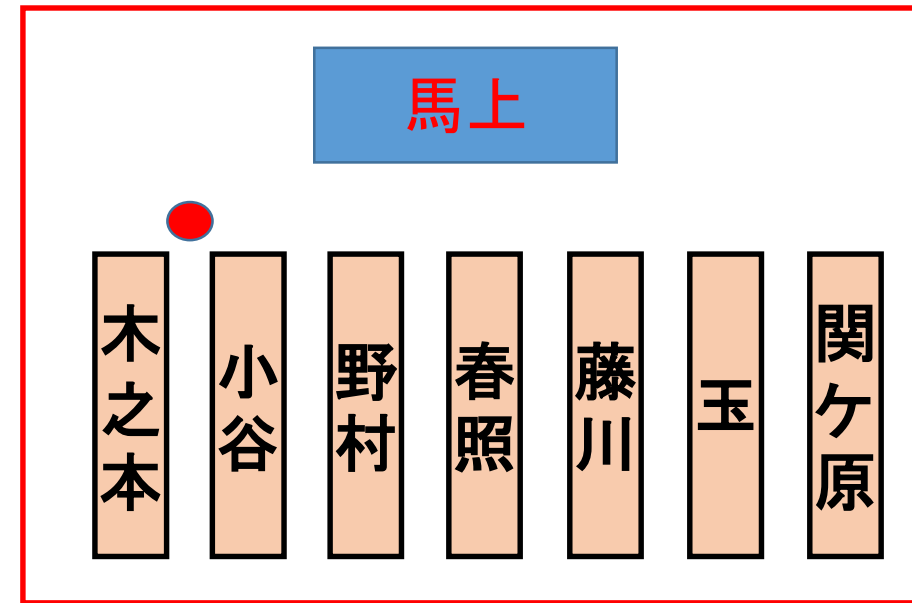
・前方は虎御前山

郡上宿の高札場あと



・建物は速水家で見事な紅葉があったことから紅葉屋という屋号をつけた

北上して馬上宿へ入る



- ・広くて直線の道路
- ・豊かな水

馬上の道標



馬上

木之本

小谷

野村

春照

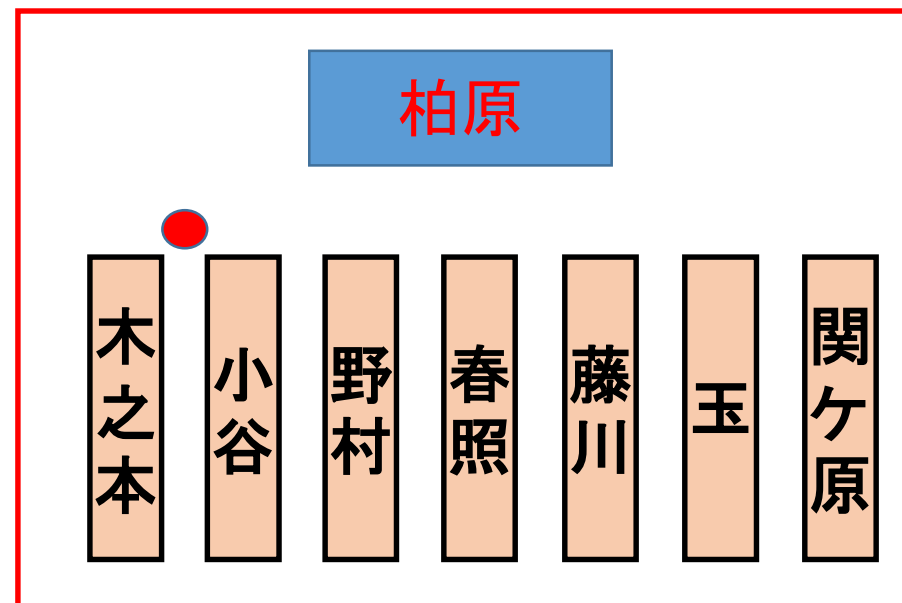
藤川

玉

関ヶ原

- ・北國きのもと道
- ・すぎのかねいはら道

高時川の堤防と桜並木



・右下の河川敷にはゲートボール場もある

渡岸寺の国宝十一面観音



柏原

木之本

小谷

野村

春照

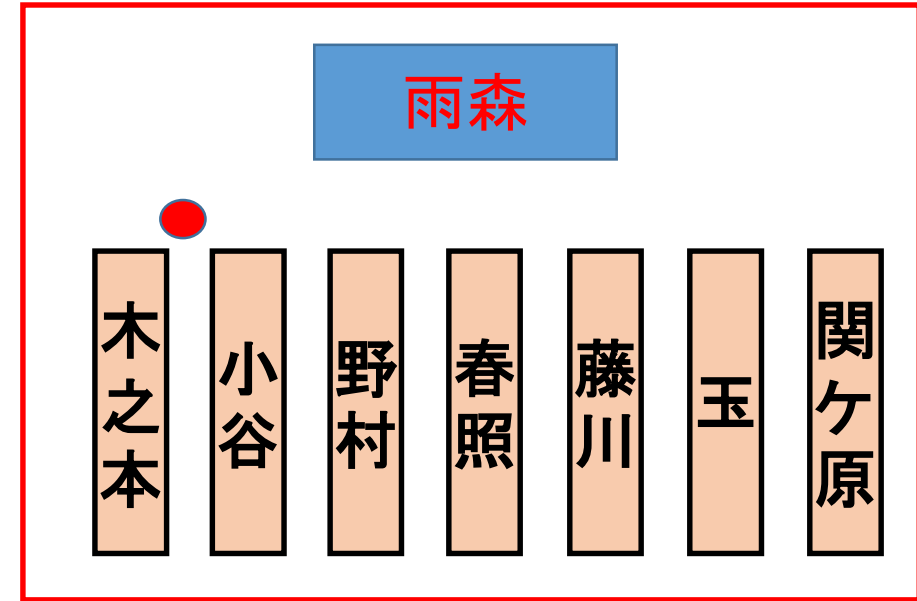
藤川

玉

関ヶ原

・あまりにも有名

雨森芳洲庵、石碑



- 湖北の村からアジアが見える

木之本地蔵院の庭



木之本



木之本

小谷

野村

春照

藤川

玉

関ヶ原

・江戸時代中期の作庭 築
山林泉式の鑑賞本位の庭

木之本にある道標(今回の旅の終点)



木之本



木之本

小谷

野村

春照

藤川

玉

関ヶ原

・「みぎ京いせみち ひだり
江戸なごや道」

まとめ

- 私たちなりに、調べたことをレポートにしました。
- ①北国脇往還を歩く・そこに見えるもの(木下)
- ②脇往還を通った人々(川並)
- ③脇往還を彩る人々(澤邊)
- ④脇往還と鉱工業(福田)
- ⑤北国街道の名産品(福田)
- ⑥北近江の鉄道敷設と変遷(三國)

後日、編集される「課題学習報告書」で確認ください

•ご静聴ありがとうございました。